

大学生の情報収集における学習方法と学習効果に関する検討 ーパスファインダーの活用および学習過程のフィードバックによる理解度の変化ー

齋藤 優衣

学習過程において、情報収集によってテーマを理解するためには、さまざまな内容の「小テーマ」(テーマが「国」の場合の「歴史」、「産業」等)を複数立て、テーマの全体像を広く理解することが重要である。本研究の目的は、情報収集を必要とする学習場面におけるパスファインダー活用の学習効果(目的 1)および情報収集過程に関する学習者へのフィードバック(FB)の学習効果(目的 2)を検討することであった。パスファインダーに掲載された情報のみではテーマの全体像を捉えられないと考えられるため、パスファインダーを活用したほうがしないよりも情報収集の幅が狭くなり、テーマの理解度が低くなると予想される(仮説 1)。また、FB の提示は学習者のパフォーマンス向上が期待されているため、FB 後のほうが情報収集の幅が広がり、テーマの理解度が高くなると予想される(仮説 2)。

実験では、筑波大学の 2~4 年生 10 名を実験群(FB あり)と統制群(FB なし)に無作為に分け、指定した各テーマ(予備調査で選出した大学生の事前知識が少ない 3 か国)について 4 つのキーワードを決め(情報収集)、タブレットで調べる課題 1~3 を実施した(課題 1 の情報収集 1 は自由、課題 2・3 の情報収集 2・3 はパスファインダーからキーワードを選択)。テーマをさまざまな内容の「小テーマ」から理解できるようにするため、FB では①課題 1・2 のレポートシート(情報収集の前後でテーマについて知っていることを記述)の内容からテーマについて幅広く理解できたか、②情報収集 1・2 で選んだ 4 つのキーワードは内容の異なっていたかを提示した。タブレット、マニュアル、レポートシート等を配布し、被験者はマニュアルに沿って各課題を行った。学習効果はテーマの「理解度」と情報収集の「方策」を指標とした。「理解度」は、レポートシートの内容を「小テーマ」に分類(計 2 名)し、その「小テーマ」の合計数を得点とした。「方策」は情報収集の幅について 4 つのキーワードを分類した「小テーマ」の数から点数化した。

仮説 1 の検討のために、課題 1 とパスファインダーを活用した課題 2 のテーマの理解度と方策に差が見られるかを検討した結果、有意差は見られなかった。したがって仮説 1 は支持されなかった。この理由としては、課題 2 のテーマの認知度が高く、差が見られにくかった可能性などが考えられる。

各群の人数が少なかったため、仮説 2 の検討では、課題 2 と実験群のみに FB を提示した課題 3(パスファインダー活用)を実験群と統制群のテーマの理解度と方策に違いが見られるかを質的に検討した。その結果、方策と理解度の点数が実験群の 3 名中 1 名、統制群の全員で伸びていた。したがって仮説 2 は支持されなかった。この理由としては、実験群の被験者は課題 2 の時点でテーマの理解度が高く、課題 3 で伸びにくかったことや、一部の被験者が挙げた FB 資料の分かりにくさが考えられる。今後の課題として、人数を増やしてさらに検討を行うことが挙げられる。

(指導教員 鈴木佳苗)